

れいわ ねんど
令和4年度

ぶんかげいじゅつ こどもいくせいすいしんじぎょう じゅんかいこうえんじぎょう
文化芸術による子供育成推進事業 —巡回公演事業—

のう あだちがはら 能「安達原」

こうえんだんたい おおつきのうがくどう
公演団体 大槻能楽堂

プログラム

えんそう
オープニング演奏

のう
能について

うたい
謡ってなあに？

はやし
囃子について

じゅすたいけん
エア数珠体験

のう つか
能で使うあれこれ

かいせつ
あらすじ解説

のうがくかんしょう あだちがはら
能楽鑑賞「安達原」

あいさつ
挨拶



ぶん かげいじゅつ こどもいくせいすいしんじぎょう じゅんかいこうえんじぎょう—
「文化芸術による子供育成推進事業-巡回公演事業-」

わ くに いちりゅう ぶんかげいじゅつだんたい しょうがっこう ちゅうがっこうどう こうえん こども すぐ
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演、子供が優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



能「安達原」

あらすじ

山伏・阿闍梨祐慶と、同行の山伏が、安達原で宿を借ります。

宿の主である里女（老婆）は、自らの身の上を嘆きつつ、糸繰りの業を見せてもてなします。そして里女は、「聞」（※寝室）の内を見るな」と言い残し、山に薪を取りに出かけます。

能力が「聞の内を見よう」と祐慶に言いますが、許されません。能力は祐慶が寝入った隙に、聞の戸を開いて見ると、そこには死骸が山のように積まれています。覗き見てしまった祐慶たちは、恐ろしい光景から里女が鬼女であるかわかり、逃げ出そうとします。

そこへ、鬼の姿となった里女が山から戻り、約束を破った恨みを述べて襲いかかりますが、祈り伏せられ、夜の闇の中へと消えて行きました。



登場人物

とうじようじんぶつ

◆前シテ 里女（老婆）
まえ さとおんな ろうば

◆後シテ 鬼女
のち きじょ

◆ワキ 阿闍梨 祐慶
あじやり ゆうけい

◆ワキツレ 山伏
やまぶし

◆アイ 能力
のうりき



能の用語

ものがたり しゅやく

◆シテII物語の主役

能面をつけ、鬼や幽霊に変身して物語の主人公を務めます。

前半（前場）との後半（後場）に分かれている曲では、前半に出てくるシテを「前シテ」、後半に出てくるシテを「後シテ」と言います。

前シテの「里女」
です（前半の姿）。



後シテの「鬼女」
です（後半の姿）。



◆ワキ・ワキツレIIシテの相手役

シテと共に物語を進めます。

面はつけません。

◆アイII前場と後場を繋ぐ役

狂言役者が勤め、物語の展開をやさしく解説します。

■作者 不明

■素材 「拾遺集」

■場所 陸奥・安達原（福島県 二本松市）

■季節 秋

のう あだちがはら ししやう

能「安達原」詞章（セリフのこと）

★今回は、前場は省略し、後場のみの上演となります。

【次第】

ワキ・ワキッレゝ旅の衣は篠懸の。旅のころもは篠懸の。露
けき袖やしをるらん。

ワキ「是は那智の東光坊の阿闍梨祐慶にて候。我この度
廻国行脚の道すがら陸奥安達原に來たり。一夜の宿を借
りて候はば。主の老婆夜寒なれば焚火をしてあて申さ
んとて山に入りて候ほどに。しばらく是に待ち申そう
するにて候。」

ワキッレ「もつともにて候。」

【間狂言・ワキ問答】

ワキゝ不思議やな主の閨の内を。物の隙よりよく見れば。
膿血忽ち融滌し。臭穢は満ちて膨脹し。膚膩悉く爛
壊せり。人の死骸は數知らず。軒と等しく積み置きたり。
いかさまこれは音に聞く。安達原の黒塚に。籠れる鬼の
住家なり。

ワキッレゝ恐ろしやかかる憂き目を陸奥の。安達原の黒塚
に。鬼籠れりと詠じけん。歌の心も斯くやらんと。
ワキ・ワキッレゝ心も惑ひ肝を消し。心も惑ひ肝を消し。
行へべき方は知らねども。足にまかせて逃げて行く。足
にまかせて逃げて行く。

【早笛】

シテゝいかにあれなる密僧。「止むといそ。さしも隠し
閨の内を。あさまになされ参らせし。恨み申しに來りた
り。ゝ胸を焦す焰。咸陽宮の煙。紛々たり。

地謡ゝ野風山風吹き落ちて。

シテゝ鳴神稻妻天地に満ちて。

地謡ゝ空かき曇る雨の夜の

シテゝ鬼一口に喰はんとて。

地謡ゝ歩み寄る足音。

シテゝ振り上ぐる鐵杖の勢ひ。

地謡ゝ邊を拂って恐ろしや。

【祈】

ワキゝ東方に降三世明王。

ワキッレゝ南方に軍荼利夜叉明王。

ワキゝ西方に大威徳明王。

ワキッレゝ北方に金剛夜叉明王。

ワキゝ中央に大日大聖不動明王。

ワキ・ワキッレゝ唵呼嚕呼嚕旋荼利摩登釈。

庵阿毘羅阰欠娑婆呵。阰多羅阰干輪。

地謡ゝ見我身者。發菩提心。見我身者。發菩提心。聞我

名者。斷惡修繕。聽我說者。得大智慧。知我心者。即身

成佛。即身成佛と明王の。繫縛にかけて責めかけ責め

かけ。祈り伏せにけり。さて懲りや。

シテゝ今まではさしもげに。

地謡ゝ今まではさしもげに。怒りをなしたる鬼女なるが。

忽ちに弱り果てて。天地に身を約め眼くらみて。足も

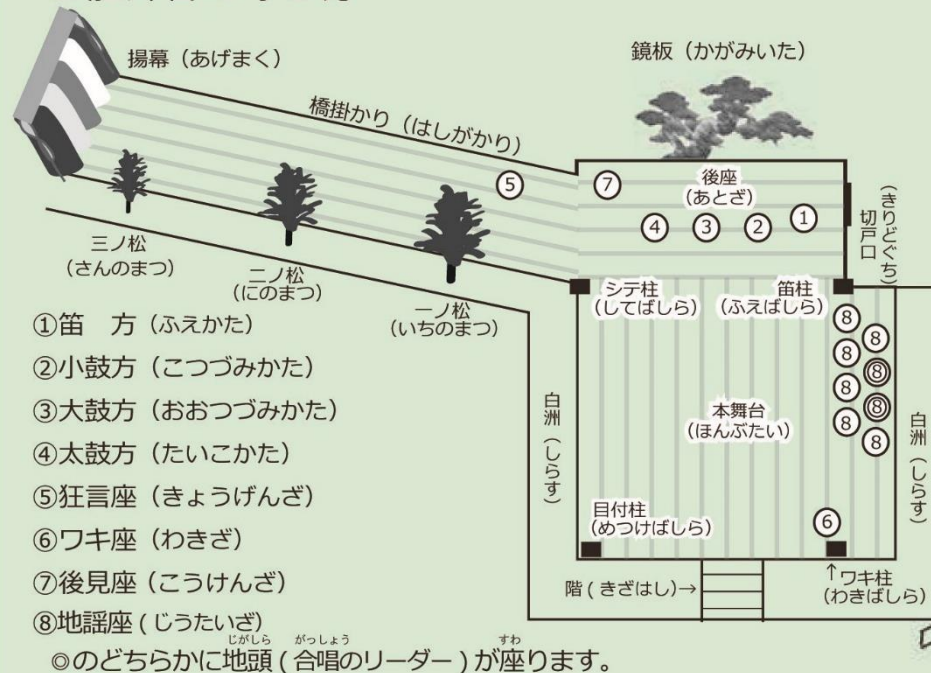
とはよろよろと。ただよひ廻る安達原の。黒塚に隠れ棲

みしも浅まになりぬ。浅ましや恥かしの我が姿やと。言

ふ聲はなほ物凄しく。言ふ聲はなほ凄しき夜嵐の音に

立ちまぎれ失せにけり。夜嵐の音に失せにけり。

●能舞台の呼び方



●能ってなあに？

能は今から約 650 年前に、観阿弥・世阿弥親子によって大成された、日本のミュージカルで、現在残っている世界中の演劇の中で一番古く、世界無形文化遺産にも登録されています。能舞台も特徴があり、舞台が客席に突き出しており、より演者やお囃子の迫力や緊迫感が客席に伝わる様式です。本公演の時は皆さんの体育館が能舞台に大変身します。お楽しみに！

●舞台上にいる人たち

後見 (こうけん)

舞台上の役者たちのお手伝いをします。役者が病気になるったり倒れたとき、代役もします。

太鼓 (たいこ)

牛の皮でできていて、音が華やかで力強く、クライマックスを盛り上げます。太鼓が出ない演目もあります。

大鼓 (おおつづみ)

馬の皮と桜の木でできていて、演奏前に炭火で皮を乾燥させます。カーン！と真っ直ぐな甲高い音が響きます。

小鼓 (こつづみ)

大鼓と同じで馬の皮と桜の木でできており、叩くときに、皮をは張っている調緒を締めたり緩めたりして、音に変化をつけます。

笛 (ふえ)

爆竹 (いろいろの上で長くいぶされた竹) で出来ていて、能管とも呼ばれ、能の楽器で唯一のメロディ楽器です。

地謡 (じうたい)

合唱隊のようなもので、物語の情景や、登場人物の心理を謡で表現します。

こんにちは、大槻能楽堂です

大槻能楽堂は大阪で、昭和 10 (1935) 年に大槻十三が設立。公益性をもった能楽堂として運営しています。近くには大阪城や大阪歴史博物館もある、文化豊かなところです。設立時に造られた能舞台は、登録有形文化財に認定されています。一度足を運んでみてくださいね。

知ってますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。